

会社案内



株式会社 四日市市生活環境公社



企業理念

私たちは

真心をもって

地域に奉仕します

株式会社四日市市生活環境公社は、1986（昭和61）10月、一般家庭のし尿収集業務の受託を目的に、四日市市が中心になって設立されました。以来公社は、公園の管理、し尿及び再生可能物の収集運搬、ポンプ場や北大谷斎場（火葬場）の管理運営（ただし公園の管理は平成14年度末まで、北大谷斎場は平成17年度末まで）等、快適なまちづくり、安心して暮らせる市民生活の実現に向けた公共事業の一端を担ってまいりました。市民のみなさんの日々の暮らしに密接に結びついているこれらの業務の遂行、施設の運営、維持管理にあたっては誠実、丁寧、迅速、確実をモットーに地域の福祉増進、生活環境の保全及び公衆衛生の向上など市民サービスの充実に努める一方、四日市市の財政運営に貢献する効率化も追求する第三セクターとしての使命に邁進してまいりました。

公社は発足時の設立趣意に基づき、行政の補完的機能を持つ第三セクターとして地域に奉仕し、住みよい町、快適な市民生活を支える担い手として、さらに効率性を追求する民間企業として更なる飛躍発展を目指します。特にリサイクル社会の構築に向けた様々な取り組みが始まっていますが、これまでも環境問題に深く関わってきた公社として、市民生活に最も身近なところから、快適で住みよい環境づくりを目指し、社会に貢献していきたいと考えています。



社訓

1. 会社のお客様は市民の皆様です。……………誰のために仕事をするのかを認識する。
2. いつも最高のサービスを提供します。……………仕事に取り組む姿勢を確認する。
3. 自分の役割を自覚し行動に責任を持ちます。……プロとしての責任感を自覚する。
4. 常に業務の改善を試みます。……………常に業務品質の向上をめざす意識をもつ。
5. 原価意識を持って行動します。……………常にコスト意識をもち、利益の向上に努める。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs への取り組み

公社の事業は社名のとおり、地域の生活環境に深く関わっていますが、社会全体の環境問題にもできることから取り組みます。

本社社屋をオール電化としたうえで、供給電力をCO2フリーとし（三重美し国Greenでんき＝非化石電源）、さらに太陽光発電設備を設置したことで、外部給電の使用量を極力減らして、CO2発生の抑制に努めています。

また、社用車の一部を電気自動車に換えて、太陽光発電と組み合わせたV2Hシステムを導入したことで、停電時においても最低限の業務を行えるように整えました。

（※V2Hとは、電気自動車と太陽光発電を組み合わせた蓄給電システム）

災害時には施設の一部を一時避難所として地域住民の方へ開放しますが、そこでもV2Hからの非常用電力が使用可能となっています。

地球にやさしく、未来をあかるく。

SDGsに目を向けた取り組みは、クリーンエネルギーの利用に加え、ジェンダーを含めすべての人が平等に働ける職場環境の整備にも着手しています。



電気自動車へ充電中



社屋の屋根に設置したソーラーパネル



バリアフリースイレ



災害時一時避難所 約240㎡

今日も あなたの街かどで YSKKは活躍しています。

「清潔で快適な環境の中で文化的な生活することは、住民すべての願いです。その中でも、とりわけごみ処理行政は、住民にとって一日たりとも欠くことのできない重要な施策です。近年、我が国においては、私たちの生活が物質的に豊かになる一方で、廃棄物排出量の高水準での推移、最終処分場の残余容量のひっ迫・・・等、廃棄物をめぐる様々な問題が指摘されてきました。これらの問題に対応するため、廃棄物（ごみ）の発生抑制、リサイクルの促進を図り、循環型社会の実現を目指し、地域レベルにおいて住民・事業者・行政がそれぞれの役割と責任をはたしていく必要があります。」（四日市市ごみ処理基本計画から）



資源物の回収および分別



資源のリサイクルは、私たちにとって最も大切なことで、環境行政が取り組むべき重要な課題となっています。

会社では、各家庭から出されるリサイクル化できる資源物の収集運搬業務を担っています。資源物の収集は分別が必須となるため、可燃ごみの収集と比べると作業工程が多く時間もかかります。また、2016年度（平成28年度）からは資源物の細分化が進み、従来の紙類、布衣類、金属類、飲料缶、びん、ペットボトルに加えて、小型家電、蛍光灯、乾電池、水銀体温計、スプレー缶、ライターの12品目を資源物として分別収集しています。



分別が多品目になるほど作業工程が増え効率は低下しますが、業務品質を落とすことのないよう常に業務の改善に努め循環型社会の推進に取り組んでおります。

 **こども110番みまもりたい**

四日市市PTA連絡協議会 四日市市教育委員会 四日市南・北・西警察署



不審者は見逃しません

学校の登下校時に、こどもの命が奪われるなど、痛ましい事件が後を絶ちません。し尿や資源物の収集業務などで、30台以上の業務車両が、市内をくまなく回っている公社では、四日市市教育委員会の呼びかけに協力し、児童生徒たちが、事件にまきこまれそうになっていないか、運転席から目を光らせています。（左の写真は「こども110番みまもりたい」のステッカーを貼っている車両）

市内のし尿収集と仮設トイレのレンタル

一般的にトイレから排出されるし尿は下水道、浄化槽、汲取りにて処理されています。公社が汲取りで処理をするし尿収集運搬業務を四日市市から委託されて30年以上が経過しました。

近年、下水道・浄化槽の普及に伴い汲取り式のトイレは年々減少しており、現在は4,100件余りとなりました。今後も減少して行く傾向にありますが最後まで責任をもって業務を行います。

また、自主事業として仮設トイレのレンタル事業及び仮設トイレの汲取りも行っています。レンタル事業は2009年（平成21年）から始めた事業で、当初は市内の自治会や団体等が主催するイベントへの貸し出しを主としていました。競合他社の多いこの事業で顧客を増やしていくことは難しく、営業部門を持たない弊社には厳しい課題ではありますが、事業開始以来、より良い物とより良いサービスをお値打ちに提供するという思いで続けてきました。

地道な事業活動の結果、当初からのリピートのお客様に加え、新規でご利用のお客様も少しずつ増え、2022年度（令和4年度）には貸出件数が事業開始年度の5倍以上1,700件を超えました。今後も利用された全てのお客様に満足していただけるような商品・サービスの提供に努めます。



雨水ポンプ場を24時間365日監視



四日市市の臨海部は、もともと低湿地帯を埋立て形成されたこと、また、鈴鹿連山を源とする大小すべての河川は伊勢湾に注ぐことから、地形的に水に弱く、治水・排水対策に悩まされてきました。このため、雨水幹線水路の末端には、大型の排水ポンプやゲート（樋門）からなるポンプ場が設置されています。公社では市内21か所のポンプ場施設の運転管理業務を四日市市から受託し、24時間365日ひと時も休むことなく、万全の監視と日常点検管理などを行っています。

特に注意報・警報の発令時（大雨・洪水・高波・津波）や大きな地震が発生した際には非常時体制で臨み、市民生活の安全を守っています。





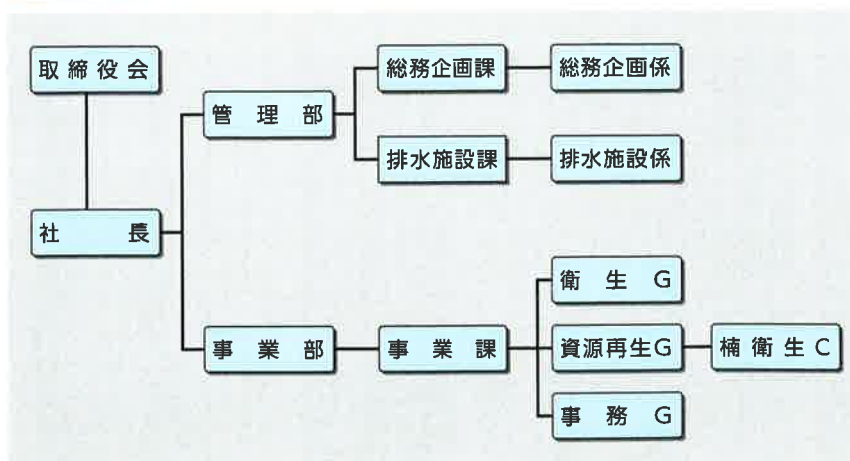
会社概要

商号：株式会社 四日市市生活環境公社
 設立：1986年（昭和61年）10月24日
 資本金：3,000万円（四日市市1,200万円 三泗地区浄化槽
 維持管理協同組合ほか1,800万円）
 代表者：代表取締役 中村 善幸
 役員数：8名〔取締役6名（内3名非常勤）
 監査役2名（非常勤）〕
 所在地：〒512-1205
 三重県四日市市平尾町2370番地8
 年間売上高：942,742千円（令和4年度）
 従業員数：112名
 注：データは2023年（令和5年）7月1日時点

事業概要

- し尿収集業務
- 雨水ポンプ場の運転管理業務
- 資源物の収集運搬業務
- 資源物の処理（選別、保管）業務
- 粗大ごみの戸別有料収集業務
- ペットボトルの収集運搬業務
- その他（し尿投入施設の維持管理など）
- 自主事業（仮設トイレのし尿収集運搬、事業所等の大口し尿収集運搬、仮設トイレのレンタル事業）

組織図



■ 本社

四日市市平尾町2370番地8
TEL.327-7553

■ 事業課

四日市市平尾町2370番地8
TEL.326-5353

■ 楠衛生センター

四日市市楠町北五味塚1085-208
TEL.397-2369

■ 排水施設課

四日市市大字日永1533-1
TEL.324-6055



沿革

- 1986年(昭和61)10月 株式会社四日市市生活環境公社設立、創業
- 1986年(昭和61)11月 四日市市から公園施設管理(除草、清掃)業務受託
- 同じく公衆便所、競輪場衛生設備清掃業務受託
- 1987年(昭和62)4月 四日市市から公園施設等管理(維持、修繕)業務受託
- 同じくし尿投入・し尿海洋投棄・し尿中継施設管理業務受託
- 同じく下水汚泥及び焼却灰等収集運搬業務受託
- 同じく浄化槽実態調査実施受託
- 1988年(昭和63)4月 四日市市からし尿収集運搬業務受託
- 同じく新富洲原ポンプ場他2か所の運転管理業務受託
- 以後年次毎に順次各ポンプ場の運転管理受託(平成18年10月現在市内13か所)
- 自主事業として、浄化槽保守点検清掃業務、事業所等大口し尿収集業務を始める
- 1992年(平成4)3月 四日市市からごみと資源リサイクルに関する市民アンケート調査実施受託
- 11月 四日市市から斎場運営管理業務受託
- 1993年(平成5)3月 本社新社屋落成
- 4月 四日市市から再生可能物収集運搬、処理業務及び家具等リサイクル業務受託
- 自主事業として、仮設便所し尿収集業務を始める
- 1995年(平成7)4月 四日市市から日永・四郷地区のし尿収集業務受託により、全市域を受託
- 5月 新株200株(1千万円)を発行、総株数600株(3千万円)となる
- 8月 四日市市資源リサイクルセンター(管理棟、缶、ビン選別その他の上屋)竣工
- 1996年(平成8)9月 四日市市から廃棄自転車処分、放置自転車等移送業務受託
- 1998年(平成10)4月 四日市市から簡易広告物取締業務を受託
- 9月 同じくし尿転送業務を受託
- 2002年(平成14)1月 四日市市から粗大ごみ戸別有料収集業務(全市域)を受託
- 4月 同じく調整池管理業務を受託(平22年3月まで)
- 2004年(平成16)10月 四日市市からペットボトル収集業務を受託
- 2007年(平成19)4月 資源再生部事業所竣工(現在の本社敷地内倉庫)
- 2009年(平成21)4月 仮設トイレのレンタル事業を始める
- 2016年(平成28)4月 小型家電等の分別収集開始、桶衛生センターの運営
- 管理および諏訪栄等戸別収集業務を受託
- 2018年(平成30)7月 排水施設課事務所竣工(四日市市大字日永)
- 12月 新南五味塚ポンプ場の運転管理業務を受託
- 2020年(令和2)4月 吉崎ポンプ場の運転管理業務を受託
- 2021年(令和3)9月 新社屋竣工(あがた栄工業団地内)
- 資源再生課を新社屋へ移転
- 2022年(令和4)2月 本社、業務課を新社屋へ移転
- 十七軒町での事業活動を終える
- 2022年(令和4)4月 組織改編に伴い、業務課と資源再生課を統合し、事業課とする

大入道



三重県四日市市

四日市市は、三重県（伊勢）の北部、すなわち北勢地方に位置し、西に鈴鹿連山を望み、自然豊かな山麓から東に向かって緑の沃野が広がるなだらかな丘陵地が、やがて伊勢湾に面する気候温暖、風光明媚な恵まれた環境にあります。昔から陸海の交通の要衝として、農業、工業、商業の諸産業がバランスよく発達し、豊かで住みよい中枢都市として発展してきました。

人口は31万人、三重県下最大の都市であるとともに、わが国有数の国際貿易港、四日市港を擁し、産業集積著しい中部名古屋圏の一翼を担っています。



冬の鈴鹿連山



市民公園



中心市街